AST、ALTが上昇しているとは?

AST、ALTはトランスアミナーゼとよばれる酵素で、肝臓(肝細胞)に圧倒的に多く存在し、アミノ酸を作 る働きをしています。AST、ALTは肝臓が何らかのダメージを受けたときに血液中に逸脱するため、血清AST、 ALT値は、肝細胞障害の程度の指標となる基本的な検査項目です。

AST、ALTのうち、とくにALTは肝臓のダメージを鋭敏に反映します。ASTだけが上昇していた場合は、心筋 梗塞や筋疾患、溶血性貧血のこともあるので、必ずしも肝障害があるとは限りません。

検診等でAST、ALTが軽度上昇したときの原因の多くは脂肪肝であり、次いでウイルス性肝炎によるものがほ とんどを占めているといっても過言ではありません。その他、抗生物質や解熱鎮痛剤の長期投与などによる薬 物性肝障害も一因となり、最近サプリメントの乱用による肝障害も問題となっています。また、稀ではありま すが自己免疫性肝炎やPBC(原発性胆汁性胆管炎)などの自己免疫疾患が隠されていることもあります。

検査のはなし vol.10

「血清AST、ALTが少し高いと 言われました

日本臨床検査専門医会 出居 真由美

脂肪肝について

肝細胞に中性脂肪が異常に蓄積した状 態を脂肪肝と総称しています。正常な肝 臓には中性脂肪含有率は5%程度です が、脂肪肝になると10%以上になって います。肝細胞が脂肪変性することで壊 され、AST、ALTが血液中へ逸脱します。

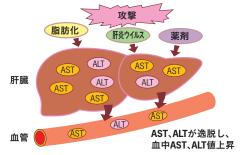
脂肪肝の成因としては、まずアルコー ル性と非アルコール性に分けられます。 非アルコール性脂肪肝はメタボリックシ ンドロームの危険因子である肥満、糖尿 病、脂質異常症などを伴うことが多いと されています。アルコールを多飲し続け れば慢性肝炎から肝硬変、肝がんへと進 行することは知られています。しかし非 アルコール性脂肪肝でも、中にはアル コール性肝障害と同じように進行増悪す る病態があります。それはNASHと呼ば れ、現在原因の解明が進み、治療法もわ かってきています。

ウイルス性肝炎について

ウイルス性肝炎の多くはB型肝炎とC型肝炎です。どちら も主に血液を介して肝臓にB型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイ ルスが感染し、正常な肝細胞を慢性的に攻撃することにより AST、ALTが逸脱し、血中で上昇します。B型肝炎は母子感染 が多く、出産時に胎盤を介して血液感染します。その他、性 行為感染も重要な感染原因となります。C型肝炎は、減りつ つありますが、輸血後や注射の回し打ち、入れ墨などが感染 原因といわれています。

B型肝炎もC型肝炎も肝硬変から肝がんへと進展する怖い ウイルスですが、適切な治療で治癒させることができるよう になってきたため、専門医を受診することが望ましいです。

図 AST、ALTが上昇している状態



●日本臨床検査専門医会:種々の検査を通して診断や治療に役立つ検査結果と関連する情報を臨床医に提供する臨床検査医の職能団体です。